

古田 しのぶ

公明

個人

十

一 高齢者肺炎球菌ワクチン接種について

(質問の事項及び要旨)

(一) この五年間の高齢者肺炎球菌ワクチン定期接種事業についての総括を聞く。

(周知方法、接種目標とその取り組み、定期接種対象者数と接種者数、接種率)

(二) 六五歳以上の未接種者全員が接種したらどれくらい医療費の削減効果があると考えられるか。

(三) これまで一度も助成制度を利用したことのない接種できなかった区民のための対策として、区で独自の助成を復活させ、救済措置をとるべきではないか。

古田 しのぶ

公 明

個 人

十

一 (一) (二) (三)

はじめに、高齢者肺炎球菌ワクチン接種についての
ご質問に、順次お答えします。

まず、この五年間の
定期接種事業の総括についてです。

高齢者肺炎球菌予防接種は、

個人の「り患予防」に重点を置いた予防接種である
B類疾病の予防接種として、

平成二十六年十月より定期接種化されました。

区では、北区ニュースやホームページへの掲載、
医療機関や主な区有施設へのポスター掲示のほか、
対象者に対しては、予診票の送付を行うなどにより、
できるだけ多くの方に接種していただくとの方針で
勧奨に努めてきました。

(後頁へ続く)

古田 しのぶ

公 明

個 人

十

(前頁から続く)

平成二十九年度の接種状況は、対象者数が一万七千四百二十七人、接種者数が五千七百四十人、接種率が三十二・九%であり、平成二十六年度から平成二十八年度までも、同様の傾向となっています。

次に、未接種者全員が接種した場合の医療費の削減効果についてです。

ご指摘のとおり、厚生労働省は本定期接種開始前の平成二十三年の専門部会において費用対効果を推計したと理解しておりますが、現在、同様の専門部会において定期接種開始後の実際のデータ等を踏まえて再評価を行っているところであり、

(後頁へ続く)

古田 しのぶ

公 明

個 人

十

(前頁から続く)

現段階でワクチン接種による医療費削減効果を、把握することは難しいと考えております。

次に、未接種者に対して、区独自の助成制度復活による救済措置をとるべきとのご質問についてです。

厚生労働省は、

平成二十六年度定期接種開始時における

専門部会において、

「平成三十一年度以降の接種対象者については、

経過措置対象者の接種状況や接種記録の

保管体制の状況等を踏まえ、改めて検討する」

との考え方を示しており、

現在、本年度の部会において、

来年度以降の取扱いについて、

議論がなされているものと考えておりますので、

北区の未接種者に対する対応につきましては、

国の検討動向を注視してまいります。

古田 しのぶ

公明

個人

十

二 がん対策について

(質問の事項及び要旨)

(一) 肺がん対策について

- ア 北区で肺がん検診を実施していない理由、
- イ どうすれば検診を実施することが出来るのか。
- ウ その場合の費用はどのくらいになるのか
- エ 特定健診と同時に肺がん検診や肝炎検査をオプトアウト方式を導入すべきだが、見解を問う。

※肺がん検診未実施区

三十年代 中野区・文京区・北区

三十一年度 文京区・北区

※オプトアウト方式

特定健診と同時にがん検診をセットで受診する方式。

古田 しのぶ

公 明

個 人

十

二(一)ア・イ・ウ・エ

次に、肺がん対策についてです。

肺がん検診については、国が推奨する

精緻な読影体制の構築が必要であり、

現在、北区では実施しておりませんが、

厳密な精度管理ができる実施体制の確保などについて、

北区医師会と協議のうえ検討を行ってまいります。

肺がん検診の費用については、

北区と同規模の自治体に聞き取り調査を行ったところ、

約一億円は必要となると見込んでいます。

また、特定健康診査と肺がん検診をセットで行う

オプトアウト方式の導入については、

特定健康診査とがん検診では、

受診対象者が異なること、

(次頁に続く)

古田 しのぶ

公明

個人

十

(前頁から続く)

特定健康診査を委託しているすべての医療機関ががん検診を実施できる体制とはなっていないことなどが課題であると考えています。

オプアウト方式による検診の実施については、がん検診の受診率向上を図るうえで、効果的な手法の一つであるとも考えますので、北区医師会などと協議しながら、がん検診全体の中で、検討してまいります。

なお、肝炎検査については、現在、特定健康診査実施時に、あわせて行っています。

古田 しのぶ

公明

個人

十

二 がん対策について

(質問の事項及び要旨)

(二) 患者の支援のために

ア がん患者の専門的・心理的なケアにつなぐための体制を作るべきだが、現状と今後の見通しを問う。

イ 乳がんの患者は三十代以降増えているが、まだまだ社会で活躍できる年代であり、ウィックなどのピアランス支援を始めるべきと考える。アピアランス支援が必要な人は何人いるのか。どのくらい予算が必要かを含め、区の見解を問う。

古田 しのぶ

公明

個人

十

二(二)ア・イ

次に、患者の支援のために、についてです。

がんと診断された後(あと)の

患者や家族が抱える痛みは、病気そのものや、治療、後遺症による身体的な痛みだけでなく、精神的な痛みや、仕事や学業生活への影響、経済的負担などの社会的痛みなど多岐にわたります。

現在、区では、健康支援センターや

高齢者あんしんセンターにおいて、

がんに関する相談を受けることがあります、

その際は、相談内容を正確に受け止めたうえで、

国や東京都のがん相談窓口等に適切につないでいます。

がんに関する悩みや相談への対応には、

専門的知識やスキルが求められることから、今後とも、在宅療養を支援する医療機関等と連携・協力して、がん患者への適切な支援に努めてまいります。

(次頁に続く)

古田 しのぶ

公 明

個 人

十

(前頁から続く)

ウィックなどのアピアランス支援については、
区内の支援対象者数等は、把握しておりませんが、
がん治療後の支援については、
先行している他自治体の取組みなどを研究し、
今後、検討してまいります。

古田 しのぶ

公明

個人

十

(質問の事項及び要旨)

三 地域の課題

(一) 王子神谷駅周辺等について

ア 北王子支線跡の整備について

【要旨】

平成二十六年まで貨物列車が走っていたが、終点の倉庫跡地には大型マンションが建った。

廃止となって間もなく五年、当初は用地をJR貨物から取得し、平成二十九年には遊歩道として整備が終わっている予定であった。整備の遅れた理由、現在の進捗状況、今後の見通しについて示せ。

古田 しのぶ

公明

個人

十

三(一)ア

次に、地域の課題についての「質問にお答えします。」はじめに、王子神谷駅周辺等についてのうち、

北王子支線の整備についてのご質問にお答えします。

北王子支線は、

平成二十六年七月に廃線となりました。

これまで区では、線路用地について、

鉄道の面影を残し、

観光にも資する遊歩道としての整備に向けて、

基本計画二千十五の計画事業に位置づけたところです。

JR貨物との用地取得協議においては、

土地利用の考え方を取りまとめることに

時間を要しておりましたが、

現在、具体的な内容について、

検討を行う段階となっております。

引き続き、早期の用地取得、跡地整備に向けて、

鋭意協議を行ってまいります。

古田 しのぶ

公明

個人

十

(質問の事項及び要旨)

三 地域の課題

(一) 王子神谷駅周辺等について

イ、大型マンション周辺の安全対策

【要旨】

王子北貨物支線終点の倉庫跡地に大型マンションが建設された。周辺の安全対策が求められている。マンション出入口前や敷地内の新しい保育園近くなど多くの住人が渡る道路に横断歩道設置がすぐに必要だ。警察との協議を迅速に進め、事故が起きる前に横断歩道設置を求める。

古田 しのぶ	公 明	個 人	十
--------	-----	-----	---

三(一)イ

次に、大型マンション周辺の安全対策についてです。

JR貨物北王子支線終点の倉庫跡地にできた

大型マンション周辺では、

東側のUR王子五丁目団地に接する区道と

西側の桜田通りについて

横断歩道の設置要望が出されており、

既にご要望を王子警察署に伝えております。

現在、警視庁が交通量など調査を進めている

とのことですので、その検討結果を踏まえ

必要な対応をしております。

古田 しのぶ

公明

個人

十

(質問の事項及び要旨)

三 地域の課題

- (一) 王子神谷駅周辺等について
- ウ 大型マンション建設によって増えた児童数、
学級数と今後の見通しについて

古田 しのぶ

公明

個人

十

三(一)ウ

私からは、大型マンション建設によって増えた王子小学校の児童数、学級数と今後の見通しについて及び、王子第一小学校の更なる通学路の安全対策についてお答えします。

初めに、ご指摘の大型マンションに入居された子どもたちの数についてです。

この四月以降、当該マンションの入居者で、王子小学校に入学された児童数は、全学年合計で八十七人です。

学級数は、一年生が昨年に比べ一クラス増加し四クラスとなり、合計で十九クラスとなりました。今後の見通しですが、

平成三十年十月時点の居住状況では、当該マンションの〇歳から五歳までの子どもの数は四百三十人程度となっております。

(後頁へ続く)

(答 弁 案)

教育長答弁

教育振興部学校支援課・学校改築施設管理課

古田 しのぶ

公 明

個 人

+

(前頁から続く)

こうした児童数の増加にともない、

今後普通教室の不足も見込まれることから、

新たに策定する「北区立小中学校施設長寿命化・

改築改修計画」において、

普通教室確保のための施設整備について

検討を進めてまいります。

古田 しのぶ

公明

個人

十

(質問の事項及び要旨)

三 地域の課題

(一) 王子神谷駅周辺等について

エ 王子第一小学校の更なる通学路の安全対策

【要旨】

王子第一小学校が、この九月から改築のため、旧桜田小に移転し、六百人余りの児童が北本通りを渡るため、交通安全指導員を増員して対応している。

一方、王子第一小の正門前は、王子消防署の方から王子第一小に登校する児童約四百名、UR団地を通って登校する児童が二百名、更に、UR団地から王子小へ登校する児童約九十名が利用している。

この道路は朝も車や自転車の交通量が多く、今後は旧桜田中に給水所設置工事のため工事車両も増えるため、旧教育相談室側の門からも登校できるようにしたらどうかと話している人もいる。

更なる安全対策について見解をお示しく下さい。

古田 しのぶ

公明

個人

十

三(一)エ

次に、王子第一小学校の更なる安全対策です。

教育委員会では、通学路の安全確保は、

何より優先的に取り組むべきものと認識しています。

ご指摘のとおり、王子第一小学校の正門前歩道は、

王子小学校の通学路とも重なることから、

通学時には、大変多くの児童が通行していますが、

通行する時間帯が、

両校で五分から十分程度異なるため

現在のところ、大きな混乱もなく

スムーズな通学状況であると聞いています。

今後とも、車両等の通行にも十分注意し、

子どもたちの安全確保に努めてまいります。

古田 しのぶ

公明

個人

十

(質問の事項及び要旨)

三 地域の課題

(一) 王子神谷駅周辺等について

才 南北線の車両編成増・増便について

【要旨】

南北線の乗車人数は、沿線のマンション建築で増え、王子神谷駅でも近年、朝のラッシュ時は、ホームに人が入りきれず階段上まで並び、住民から対策が求められている。

今年の予算特別委員会で青木区議から要望があったように、八両編成にしたり、増便をするなど輸送力の改善することを求める。このことについて東京メトロとどのように協議しているのか。

古田 しのぶ

公明

個人

十

三(一)オ

つぎに、南北線の車両編成増や増便についての
ご質問にお答えします。

八両編成化について、
東京メトロへ検討を求めたところ、
昨今の輸送人員の増加や混雑状況を勘案し、
車両の八両編成化や増便も含めた混雑緩和対策を、
検討していくとのことでした。

区といたしましては、
乗客の安全を確保する観点からも、
改めて東京メトロに対し、
混雑緩和対策を求めてまいります。

古田 しのぶ

公明

個人

十

(質問の事項及び要旨)

三 地域の課題

(一) 王子神谷駅周辺等について

カ 王子神谷駅出入口への屋根設置について

【要旨】

王子神谷駅庚申通り側出入口は、階段の上に途中から屋根がなく、雨の時は傘を差しながら階段を上り下りし、大雨の時は水が駅構内に入り込む。屋根設置は洪水対策にも必要で、北区から東京メトロに申し入れ、設置に向け関係機関協議を望む。北区の見解を問う。

古田 しのぶ

公明

個人

十

三(一)カ

つぎに、王子神谷駅庚申通り側3番出入口への屋根設置についてお答えします。

本出入口は、

交差点における視認性確保の観点等から、開業当初より屋根のない現在の形態にて営業を続けておりますが、

現在、東京メトロでは、屋根設置に向けて、関係機関と協議を進めているとのことですが、

区といたしましては、

屋根設置に向けた進捗状況を把握し、必要に応じ、早期設置に向けた申し入れを行ってまいります。

古田 しのぶ

公明

個人

十

(質問の事項及び要旨)

三 地域の課題

(一) 王子神谷駅周辺等について

キ、王子神谷駅周辺の放置自転車対策

【要旨】

王子神谷駅周辺、特にスーパー前は広く自転車が停められている。災害時の避難場所でもあり、北区とUR・スーパーなどと協議をして改善すべき。見解を問う。

古田 しのぶ

公明

個人

十

三(一)キ

次に、王子神谷駅周辺の

放置自転車対策についてです。

ご指摘のスーパー前には、

スーパーの利用者に混じり放置自転車も多いと

認識しています。

この場所は、UR王子五丁目団地の敷地内で、

区が定める放置自転車禁止区域ではありませんが、

避難場所でもありますので、

URに放置自転車対策を求めるとともに

必要に応じて、

スーパーにも協力を求めてまいります。